



日本勤労者山岳連盟
Japan Workers' Alpine Federation
〒162-0814
東京都新宿区新小川町 5 番24号
TEL 03 (3260) 6331 (代)
FAX 03 (3235) 4324 (代)
URL http://www.jwaf.jp

お問い合わせ・情報は

フリーダイヤル
0120-44-2742
(平日10時~18時)
E-mail : jwaf@jwaf.jp

日本の登山文化・技術を 次の世代に 継承・発展させよう！

16年ぶり 「全登研」を11月に 東京で開催



岩手県・葛根田川を登る登山者（登山時報より）
日本で生まれた登山スタイルは、日本の文化だ

登山全国連盟は、11月5（土）～6（日）に「第16回全国登山研究集会」を開催します。登山は過去に、15回の「全登研」を開いてきました。「全登研」はその時代の重要な課題について全国の会員の経験と知恵を持ち寄り、テーマを掘り

下げ、新たな方向を切り開くために開催されてきました。1970年代の数回の「全登研」からは、その後の登山で大きな流れとなった自然保護、女性と登山、海外登山などの分野が確立し、独自開発へと移行しました。1991年の「全登研」では「登山の社会的・文化的価値の探求」をテーマに掲げ、登山を社会的な価値あるものとして追求する今日の登山の基本的スタンスが確立されました。



過去に開催された全国登山研究集会を
報道する「登山時報」の記事

レポート募集中

全登研を内容豊かに成功させるために、地方連盟や会・クラブから、レポート提出をお願いします。寄せられたレポートを編集して資料集とし、その中から、当日、発表していただく方を選任します。（発表者の交通費は全国連盟が負担）

●テーマ

- ①会員拡大の経験（登山教室や自治体のニュース活用など）
- ②山行管理の体制と緊急時の対応（メーリングリストの活用など）
- ③新たな入会者（若手）に対し山行などをどのように働きかけているか
- ④会報発行の工夫と年発行回数（発行体制など）
- ⑤ホームページの活用
- ⑥登山の基金や歴史などの教育
- ⑦会の運営と体制で工夫・努力していること（月例会の開催数、役員選出など）

●書式と提出方法 ワードで作成 A4版 文字数行数40（1600字） 写真や図表も添付し、メールで送信してください。
送信先 jwaf@jwaf.jp
提出期限 2016年9月30日

しかし、2000年を最後に、この「全登研」は開かれていません。それを、この11月に再開することにしたのは、いま、登山が解決すべき大きな課題に直面しているからです。昨年11月末の登山組織調査では全国の会員数が2万人を割って1万9985人となりました。これは、1996

年、2万人を突破して以降、初めての事態です。仲間を増やし、登山文化の継承・発展をどうはかるのか。これは、単に登山だけの問題ではなく、日本の登山界全体がかかえるべき大きな課題です。登山内でも、さまざまなかろみが行われ、新しい発展につなげている例が見られます。こうした先進的な取り組みを集め、それをヒントにしたい、私たちが何をなすべきか、この研究集会で大いに議論しようではありませんか。誰でも自由に参加できる集いです。ぜひ、たくさんの方々が参加し、何かを感じ、持ち帰っていただくことを期待しています。

回数	開催月日	開催地	参加者数
●第1回	1969.5.31～6.1	愛知県名古屋市	161名
●第2回	1970.6.13～14	愛知県名古屋市	168名
●第3回	1971.7.10～11	兵庫県西宮市	372名
●第4回	1972.7.8～9	京都府京都市	392名
●第5回	1973.6.23～24	神奈川県横浜	352名
●第6回	1975.6.28～29	東京都中央区	352名
●第7回	1977.6.18～19	東京都渋谷区	174名
この研究集会から自然保護、女性、海外登山分野が分離独立			
●第8回	1981.11.7～8	大阪府大阪市	120名
テーマ：登山運動の理論と実践			
●第9回	1984.10.20～21	埼玉県浦和市	159名
テーマ：①文化としての登山と登山者教育 ②登山と平和問題			
●第10回	1987.11.28～29	岡山県玉野市	160名
テーマ：仲間と共に豊かな登山を働く者の登山研究			
●第11回	1989.11.4～5	北海道札幌市	300名
●第12回	1991.7.13～14	東京都渋谷区	105名
テーマ：登山の社会的文化的価値の探求			
●第13回	1993.10.16～17	東京都渋谷区	52名
テーマ：継承発展させるべき登山の歴史的遺産とは何か			
●第14回	1995.10.28～29	東京都渋谷区	40名
テーマ：戦後50年 戦時下の登山と戦後の出発の原点			
●第15回	2000.10.15	東京都新宿区	60名
テーマ：登山と自然との真の共生・共存のあり方を探求しよう			

第16回 全国登山研究集会

日時 11月5日（土）13:30～6日（日）12:00
会場 国立オリンピック記念青少年センター
東京都渋谷区代々木神園町3-1-1

※新宿駅から小田急線で2駅目・参宮橋駅下車 徒歩7分

初日は国際交流棟2F 第一ミーティングルーム

参加対象 登山会員および全国の登山者
参加費 1泊2食 5000円
00円 日帰り参加は一日でも二日でも5000円

日程（5日）記念講演、映像で見る登山のこれまでと現状、地方連盟・会からの活動報告

（6日）分科会、ハイキング交流集会
参加申込 参加申込書を全国連盟事務局へ

労山創立者

伊藤正一さん

他界される



伊藤正一（しょういち）さん（6月17日（金）午前5時50分に、入院先の長野県・安曇野市の安曇野日赤病院で他界されました。享年93歳でした。

伊藤さんは戦後の1946年、いち早く北アルプス最奥部の三俣蓮華山荘を譲り受け、その近辺の小屋とあわせて、登山者の世話や登山道の整備、遭難者の救助活動などに永年たずさわりました。そのなかで、大衆登山の普及や、山小屋経営者の地位向上の必要性を痛感し、1960年5月に

伊藤さんは戦後の1946年、いち早く北アルプス最奥部の三俣蓮華山荘を譲り受け、その近辺の小屋とあわせて、登山者の世話や登山道の整備、遭難者の救助活動などに永年たずさわりました。そのなかで、大衆登山の普及や、山小屋経営者の地位向上の必要性を痛感し、1960年5月に

「登山時報」は労山の顔 皆さんの購読が支えです

「登山時報」は、日本勤労者山岳連盟が発行し、全国の会員の皆さんをつなぐ機関誌として、毎月中旬に翌月号が発行されています。発行開始は1974年からで、まもなく通算第500号をむかえます。

内容は、特に表紙が美しく、カラーページも充実しています。内容は、全国の仲間から寄せられた山の情報、地図や山道具など役に立つ知識、トレーニング方法、仲間たちの活動の様子など、楽しく読める記事が満載されています。

「登山時報」は、すぐれた機関誌として、国内・外の山岳団体からも高い評価を

「登山時報」は、すぐれた機関誌として、国内・外の山岳団体からも高い評価を



2016年7月号の表紙

購読料は前納制 納入はこうに

●個人購読

購読者の自宅に冊子を個別に郵送します。購読するには直接、全国事務局にお申し込みのうえ、1年分の購読料（4560円）を郵便振替口座に前納してください。前納額が残り2か月分になった時点で、購読料納入のご案内を「登山時報」に同封いたします。

●団体購読

会ごとに、購読部数に無料分1冊を合わせて一括して指定箇所に郵送し、各会担当者が個々の購読者に配布しています。お申し込みは各会担当者をお願いします。購読料を前納していただくことは個人購読の場合と同じですが、特に納入に関する決まりごとはありません。

購読料は月310円ですが、全国への納入は1部あたり260円です。その差額50円は、各会での事務手数料としてご使用ください。各会で、それぞれ都合のよい購読料期間を決め、冊数分の購読料をご納入ください。いつ納入いただくか、納入金額をいくにするかは、特に決めはありません。ただし、必ず前納をお願いします。

全国事務局では、前納いただいた金額をプールし、毎月の金額を差し引いて、残高が少なくなると、購読料納入のご案内を「登山時報」に同封いたします。残高がマイナスになっても発送停止はしていませんので、不足分もふくめ、至急、納入をお願いします。

入山から下山まで あなたの登山を見守ります



「安全登山サポートシステム」で山行管理ができます

少人数の会など活用すれば便利

みなさんは「安全登山サポートシステム」を存じでしょうか。

このシステムは、各会で実施している山行管理を、最近の発達した通信手段を活用して、一括して実施するもので、労山が独自に開発しました。運用開始から

すでに約4年がたち、安定して運用されています。

現在、このシステムを主として利用しているのは労山の個人会員制度「ROUSANパートナーズ」会員です。しかし、あらかじめ登録してあれば、すべての労山会員も利用することが可能です。

労山加盟会でも、会員数が少人数の場合は会独自の山行管理体制が十分に整備できていないことがあります。また、どうしても在京連絡先になってくれる人を確保できない場合もあります。そんな際に、このシステムを利用していただくと、便利なのではないでしょうか。

ただし、必ずネットにつながったパソコンと、携帯電話か、またはスマートフォンが必要で、

会です。事前登録すれば、基金の資料にも

また、あらかじめ会で確認し、全国連盟特別基金運営委員会に登録してあれば、基金の申請に不可欠な

これまでも、幸いにして、山行監視中に遭難事故が発生したことはありません。しかし、下山連絡がないため、本人や家族に電話して無事下山を確認したり、一度などはどうして本人と連絡がとれないか

このシステムの利用方法には「ROUSANパートナーズ」用のホームページがないため、本人や家族に電話して無事下山を確認したり、一度などはどうして本人と連絡がとれないか

第17回全国登山者自然保護集会

開催日 11/12~13
会場 茨城県つくば市・筑波ふれあいの里
筑波山の中腹にある自然の豊かな施設です。
交通 つくばエクスプレス つくば駅（終点）よりバス45分の「つくば山登山口」よりタクシー約10分
主管 茨城県連

第32期全国連盟役員

2016年2月20~21日の全国総会で広域理事会制度が採用され、新役員が選出されました。

(会長) 西本武志
(副会長) 佐々木功 洞井孝雄
花折敬司
(理事長) 浦添嘉徳
(副理事長) 石川友好 大澤辰雄 高橋友也
花村哲也 廣木国昭

(事務局長) 川嶋高志
(理事) 赤間弘記 池谷友夫 伊藤正勝 上野美知代 白井邦徳 加納公子 川辺淳一 久保典子 今野善伸 三瓶健 塩澤良雄 田上千俊 竹本幸造 早川尚武 松野千代 加三上茂 山本尚徳 渡邊健治
(監事) 田村廣史 渡辺三男

登山時報は第3種郵便

安く郵送できます

「登山時報」は、第3種郵便物の認可を受けています。このため、郵送する際は普通郵便物より安く送付できます。

●郵送料

第3種郵便物の料金は「重さ50g以内」が62円で、さらに50g増えるごとに8円が追加されます。上限は1kgです。封筒はB5版でも、A4版でもOKです。したがって登山時報を1冊送る場合は70円、2冊なら86円で送ることができます。

●送り方

普通郵便物と同様に封筒に封入しますが、その一部を切った中が見えるようにして、表面に「第3種郵便」と朱書します。そのままポストに投かんできます。封筒内には、他のものは入れてはなりません。ただし、請求書などはかまいません。